



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第85号

発行日
令和3年9月1日

◇ 目 次 ◇

P-2 藤重自然保護管着任挨拶

環境省研修会

P-4 包ヶ浦海岸清掃

P-5 昼食焼肉懇親会

公募観察会②干潟調査

P-7 公募観察会② アンケート結果

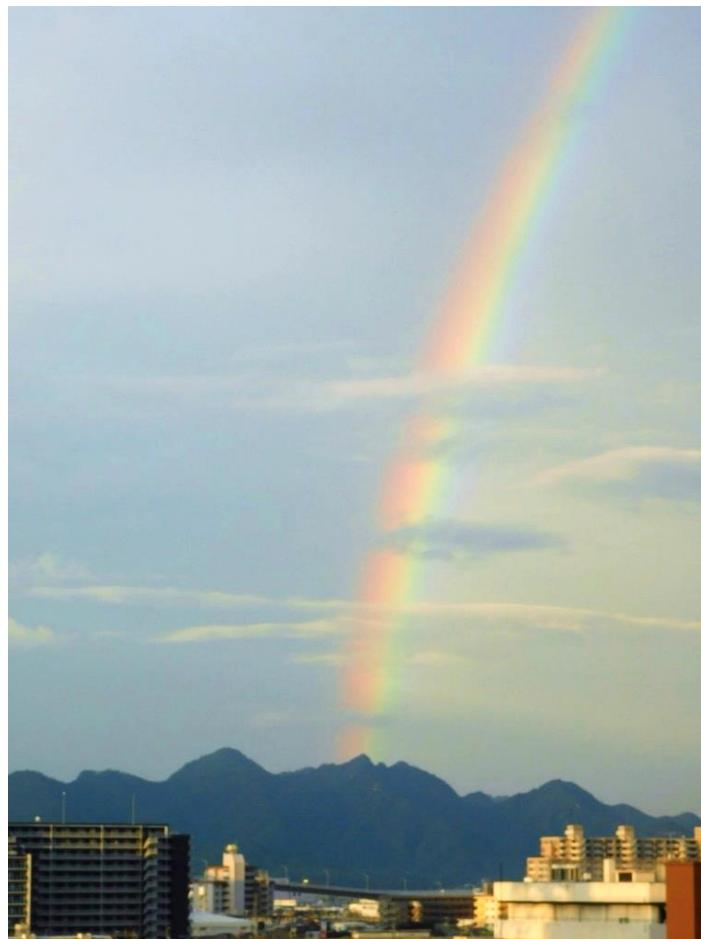
P-9 投稿記事① 紅葉谷道ミズバイ生育調査

P-10 投稿記事② 俳句

P-10 投稿記事③ 入浜池の情報

P-11 編集後記

「弥山にかかる虹」



包ヶ浦海岸清掃の PV 行事がある 7 月 17 日、早起きしてちょっと雨がちな空模様を見るためにベランダに出てみると、弥山の頂上から立ち上がるよう天に高く虹がかかっていました。5 時 20 分頃から 30 分間ほど現れて その後小雨が降りだしました。わずかの期間に見ることができ、早起きは三文の得！ 幸運だったようです。

(撮影場所 佐伯区五日市) 写真・文 岩崎義一

藤重自然保護官 着任挨拶

出身地：大阪府大阪市
経歴：学生時代は川の富栄養化の供給源について研究。その後平成13年11月入省。

本省国立公園課→九州地区自然保護事務所

(阿蘇市) →九州自然環境事務所(熊本市) →関東地方環境事務所(さいたま市) →中国四国地方環境事務所(岡山市) →釧路自然環境事務所(釧路市) →中国四国地方環境事務所(岡山市) →本省自然環境整備課を経て令和3年6月22日より現職。

趣味：ドライブ、DIY

ひとこと：初めまして、6月22日に赴任しました藤重と申します。前任地は本省の自然環境整備課で、国立公園等の整備に関する公共事業の担当をしていました。家族を岩国市に置いて、単身赴任していたので、家から通える広島事務所を希望はしていましたが、整備畠を歩んできた自分が広島事務所に配属される事は、正直難しいと思っていたので、広島への異動がき決まった時はうれしかったのはもちろんですが、それ以上に驚きました。

宮島は、岩国市から近いこともあり、これまで何度も何度も訪れたことはありますし、また、岡山に赴任していた時も、整備関係の仕事で、足を運んだことはありますが、やはり保護官という立場となるとこれまでとは気持ちは全く異なります。

先日の幹事会では、宮島地区パークボランティアのみなさまが、長期にわたり熱心に活動をされ、宮島をとても大切にしていることが強く伝わってきて、自分もみなさまに負けないようにしっかりと頑張らないといけないと思いました。

これからどうぞよろしくお願ひいたします。



環境省研修会

講演：

「瀬戸内海で見られる冬虫夏草(とうちゅうかそう)について」

日時：7月10日（土）

場所：etto 宮島交流館 2F ホール

行事推進員： 麻生 五石

出席者：猪谷 岩崎 大林 小川 恵田 北野

河野 小林(観) 小林(み) 佐渡 佐藤

山本(加) 末原 兎谷 中道 二神 穂井田

増田 弁田 松田 三戸 村上(光) 森

山本(昌) 横路 呼坂 上杉(裕)

上杉(幸) 長村 福岡 村上(慎)

以上 31名

環境省：藤重自然保護官、永瀬自然保護官、大高下 AR

講師：瀬戸内虫草団

(せとうちちゅうそうだん) の皆様 3名

資料：「下関の冬虫夏草」

(豊田ホタルの里ミュージアム)

スケジュール：

9：10～ 開会

9：10～10：30 講演

10：40～11：25 實例紹介

11：25～11：40 標本作り

11：50～12：30 現地～紅葉谷調査

昨年はコロナ予防のため延期になったので、2年越しとなった「冬虫夏草」についての研修会が、開催されました。まず、環境省の大高下 AR と、7月に赴任された藤重自然保護官から開催のご挨拶があり、その後講演に入りました。



○ 濱戸内虫草団

講師として団から、顧問の北野俊治さん、事務局長の金丸恵子さん、会員の北野優子さんの3人が来てくださいました。団のメンバーは全部で十数人。広島や山口で、冬虫夏草の調査などを行っておられるとのこと。6,7月には、広島市植物公園で展示もされているそうです。



冬虫夏草（カメムシタケ）

○冬虫夏草の生活

推定によると、冬虫夏草は胞子の時に、こん虫の幼虫等に寄生し、その後、虫を殺して栄養をとって大きくなると考えられています。写真で、枝の中ごろまで上ったところで死んでいる（殺されている？）アリに、寄生して成長している冬虫夏草を見ました。なかなかたくましく、寄生された虫には、かわいそうなことです。



○冬虫夏草とは

言葉は聞いたことがありますか、正確に知っている人は少ないのではないでしょうか。「冬は虫、夏に草になる」ではありません！ 簡単に言うと「昆虫に寄生する菌、キノコ」だそうです。冬虫夏草は現在、世界に600種類、日本にも400種類いるそうです。寄生する相手は、セミやカムシ、アリ、ハチなど様々。有性生殖を行う「完全型」と、無性生殖を行う「不完全型」の2つの型があります。

○寄生する生物

寄生の相手は、セミ類、カムシ類、アリ類、チョウ類など様々。写真や実物標本を見ると、昆虫の体そのものから、3~5 cmの子実体が伸びています。

○探すには

多くみられるのは、6~9月頃。適度に湿っていて、寄生する虫などがいる場所にいます。地生型、朽木生型、気生型がいます。見分け方は、根元に虫などがいるかどうか、また他のキノコは触ると柔く、取れたりしますが、冬虫夏草は弾力があり比較的丈夫であることなどで、区別できます。広島県内にもたくさんいるそうです。湿った落ち葉の中、苔の生えているところ、岩の間、葉っぱの裏など探してみては。

○標本作り

講師の方が用意した実物の冬虫夏草を、ケースに入れ、種類や日付などを記入。私のは、カムシに寄生し3センチほどの白い枝を持った冬虫夏草でした。最初はちょっと不気味でしたが、お話を聞いているとだんだん愛着が湧いてきました。

包ヶ浦海岸清掃

日 時：7月 17日（土）9:30～12:00 曇り

場 所：包ヶ浦海岸

行事推進員：島 村上（慎）

参加者：

岩崎 恩田 北野 河野 小林（勲）

小林（み）佐渡 佐藤 島 末原 兎谷 増田

元広 森 種本 長村 福岡 村上（慎）吉賀

以上 19名



○漢方薬？

チョウに寄生する冬虫夏草などに、効用があるかと言われているそうです。

○ 現地調査

紅葉谷の川沿いを3班に分かれて現地調査。川沿いの湿った所を歩き、苔の生えた岩の影などを探しました。私たちの班では見つからなかつたけど、ほかの班はどうだったでしょうか。



半夏生

○ 感想

冬虫夏草は特別ではなく、広島県の私たちの周りにもいることに驚きました。これから自然を歩くとき、探す楽しみが増えました。研修会にあたって、たくさんの準備をしていただいた講師の方々、毎年貴重なテーマを探してくださる環境省の方、大変ありがとうございました。

（文：二神、写真：河野）

令和元年は雨天により、令和2年は新型コロナウィルスの影響により中止となり、今回、3年ぶりの開催となりました。

7月13日の梅雨明け後も不安定な大気の状態が続き、当日の開催が危ぶまれたものの何とか持ちこたえ、曇り空であったものの、ムシムシ、ジメジメとするなか、熱中症に注意しながら作業を開始しました。

既に海開きしている海水浴場南東側の海岸は、遊泳区域外のためか漂着ゴミが散乱しており、一見するとほとんど木屑の様に見えましたが、この地域特有のカキ養殖用パイプが多数混在していました。

清掃方法は木屑の塊を熊手で一旦グランドシートの上に集め、その中からカキ養殖用パイプ等のプラスチック類や、瓶・缶・ペットボトル・金属片等を手で選別するという根気がいる作業を繰り返しました。

45リットルゴミ袋が3袋分収集することができ、この夏訪れる方々に、綺麗になった海岸で気持ち良く過ごしていただけれることでしょう。





昼食焼肉懇親会

行事推進員：五石

参加者：

岩崎 北野 河野 小林（竜）小林（み）
佐渡 佐藤 島 末原 増田 元広 森
福岡 村上（慎） 以上 14 名

清掃後、場所を包ヶ浦自然公園のバーベキューハウスに移し懇親会を開催しました。

バーベキューの準備をしていただいた会員の方々のおかげで、すぐにおいしいお肉と野菜を食べることができました。

お肉の量を見て「食べきれるかな～？」という心配の声もよそに約1時間で完食。海岸清掃で消費した大量のカロリーとこの夏を乗り切るためのスタミナが補充できました。



コロナ過での感染防止対策を取りながらの作業ではありましたが、無事3年ぶりの活動を終了することができました。

来年こそは新型コロナウィルスが終息し、「マスク」のない活動となるよう望みます。

（ 文：村上（慎）、写真：河野 ）

公募観察会②干潟調査

“親子で楽しむ！海辺のいきもの調べと潮干狩り”

日時：7月24日（土）13:00～16:00

開催場所：宮島 大鳥居周辺

行事推進委員：金山 北野 呼坂

参加者：北野 河野 小林（竜）小林（み）

佐藤 末原 増田 元広 森 呼坂 福岡
以上 11名

公募参加者：30名（8家族 25名、学生 5名）

見学者：廿日市市観光課職員 3名

今日の天候は晴れ。とても暑い日でしたが、集合場所の大元無料休憩所には、涼しい風が入ってきました。

集合時間が近付くと、元気な子どもたちが集まってきた。その中には会員のお孫さんもおられました。また、広島経済大学の学生さんたちや、廿日市市観光課の皆さん姿も見られました。

まず、末原会長から挨拶があり、熱中症への注意喚起などが行われました。次に、講師の呼坂会員から、干潟の生き物の生態についてお話をありました。今日、実際に観察できるカニなどの生態について写真を示しながらわかりやすく説明がありました。



その後、生き物を観察しながら干潟の中をゆっくり歩きました。干潟の生き物たちに次々に出会うことができました。

ハクセンシオマネキは繁殖期であるため、巣穴から出てきて白いハサミを大きく振っている姿が見られました。そのうち一匹を捕まえて、観察用トレーの中でじっくり観察しました。ハクセンシオマネキは、じつとして目玉をニョキッと伸ばしていました。オスであるため、片方のハサミがとても大きかったです。



熱中症予防のため、各自で水分を補給した後、砂浜へ移動し、スナガニを観察しました。スナガニの観察方法について、講師から説明がありました。直径 2~3cm ぐらいの巣穴を見つけたら、周りの白い砂を集めて、巣穴が埋まるまでゆっくり流し込んでいきます。次に、白い砂を目印として、穴を掘り下げていきます。30cm ぐらい掘り進むと、スナガニと出会うことができます。「おった！、おった！」と、子どもたちの歓声があがっていました。スナガニは、目にも止まらない速さで砂浜を逃げていきます。子どもたちは何度も手で捕まえようとしたが



捕まえられず、スナガニの足の速さに驚いていました。



干潟の中の小さな流れでは、マメコブシガニが前へ前へとゆっくり歩いているのを見つけました。その姿が握ったこぶしに似ていることから、この名前が付けられています。カニは横に歩くものと思いがちですが、このカニは関節が自由に動くので前に歩くことができます。また、干潟の掃除屋さんのアラムシロたちが、エサのにおいに反応して小さな流れの中をゆっくり移動していました。アラムシは、生き物の死体などを好みます。



アラムシロ

干潟観察会の終わりに、みんなでバケツの中の生き物たちを海へ放してあげました。その後、休憩所に戻り、小休憩をしました。冷たい飲み物が配られ、水分を補給しました。

最後に、全員でアサリ掘りをしました。誰もが夢中になってアサリを掘っていました。帰り際に干潟の中の流れでアサリを洗ったのですが、泥が入った空のアサリが見つかることがあり、残念！と笑顔が見られる場面もありました。



公募参加された子どもたち、お父さん、お母さん方はとても楽しまれた様子で、充実した干潟観察会となりました。会員の皆様も、暑い中、お疲れ様でした。

(文 : 元広、 写真 : 河野)

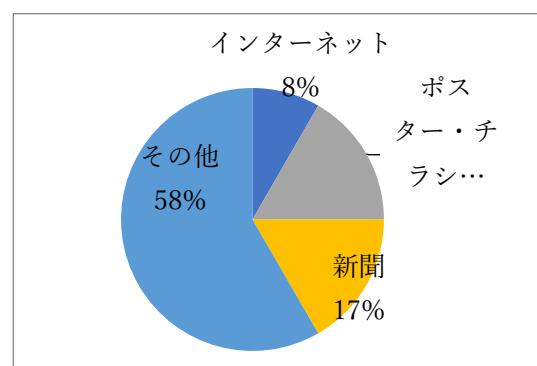
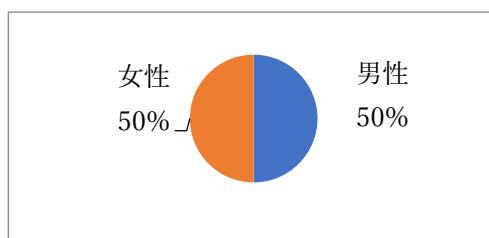
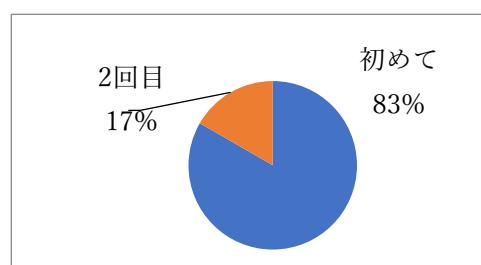
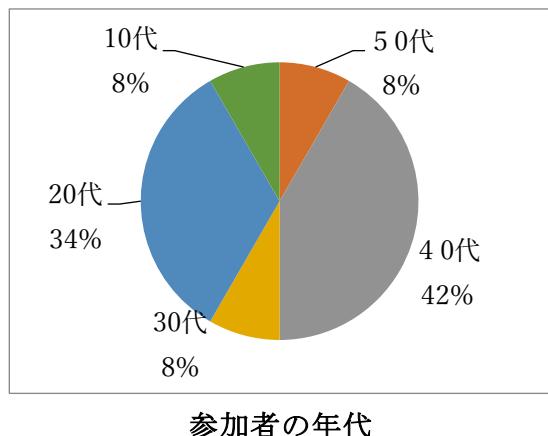
(参考文献)

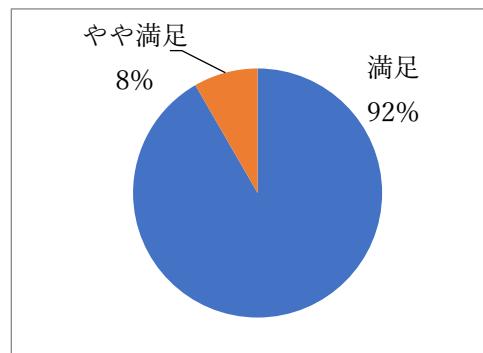
2011『瀬戸内圏の干潟生物ハンドブック』香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション編、恒星社厚生閣。

2021「干潟の観察テキスト 海辺のいきもの調べ IN 宮島」環境省宮島地区パークボランティアの会。



アンケート結果





行事の感想

【行事に対する感想・ご意見・要望等】

・子どもが水の生き物、興味があるから自分で触って、自由に採れたから楽しんでいた。その場その場で質問に答えて頂けたので学べた。魚の観察会も行ってみたい。(子供)たくさんいきものをさわってたのしかったです。(50才代女性)

・体験型イベントに参加してみたいと思っていましたから。普段気にしていない小さな気づきをたくさん経験させて頂き、また途中での休憩や水分補給に配慮頂きありがとうございました。(40才代男性)

・自然に興味がある。観察会前の説明がわかりやすかったです。講師・テキストについて説明がわかりやすくて良かった。
(40才代女性)

・娘(6才)に自然を体験させたい、娘本人の興味。娘がフィールドワーク楽しんでいた／実際に生き物を手づかみできる／スタッフの方々、年配の方も、若い方もとても親切で娘に良くしてくれた。講師・テキストについて詳しくて、今後の研究に役立ちます。次回は網、軍手、バケツも持参します。ぜひ毎年お願いします、下の子(男の子1才)もいつか連れてきたいです。(40才代女性)

・子どもが海の生き物に興味があるため。全く知らないことを(生態について)知られたのでとても満足です。飲み物、軍手、アサリを頂けるとは知らずびっくりしました。講師・テキストについて、とても熱心で有難い

です。説明の時、拡声器を使われるなど(室内の時も)して頂けたらさらによく聞くことができて良いかと思いました、もしくは輪の中心あたりで話されるか。子どもが自然(生き物)に興味がある。/いろんなカニを発見できてよかったです。話しかけやすい人ばかりでした。(40才代女性)

・子どもが自然(生き物)に興味がある。いろんなカニを発見できてよかったです。話しかけやすい人ばかりでした(40才代女性)

・自然に興味があった。子どもに体験させたかった。とても丁寧に説明されており、子どももわかりやすかったです。暑い中ありがとうございました。また参加してみたいと思います。もっと大きく宣伝されたらもっともっと子どもたちが来て、いい体験になると思います。(40才代女性)

・宮島の自然に触れたかったから。多くの生き物が知れて良かったです。楽しかったです。(20才代男性)

・たくさんの種類を見る事ができた。講師・テキストについて、人数が多く聞きやすかったです。子供には漢字が多くて読みにくそうだった。とても楽しかったです。これからもぜひ続けてください(20才代男性)。

・宮島の生き物のことをもっと詳しく知りたいと思ったから。カニもたくさんの種類があるのだな、と感じた。分かりやすい説明と、見やすいテキストでした。医療用具がすぐ出てきた。海だけでなく山とかの植物バージョンもあれば行ってみたい(20才代男性)

・宮島の自然について勉強したかったから。今まで見たことのなかった生物が見られてとても良い機会になりました。ありがとうございました。(20才女性)

・おもしろそう。カニやアサリなど、呼坂さんやその他の方に満足です。アサリほりをもっとしてみたい。(10才男性)

(まとめ：舛田)

/// 投 稿 ///

① 紅葉谷道ミミズバイ 生育調査

岩崎会員

今年の新春登山はコロナ禍により中止となつたことと、紅葉谷登山道補修工事の通行止めのため、例年行つてゐるミミズバイ生育調査はできていませんでした。

そこで 登山道再開の後すぐに 4月3日に総会資料作りなど準備に集まつた折、河野会員と二人、測定に登ることにしました。

コロナ禍にもかかわらず、親子連れや若い人の登山者が多く目立ち、獅子岩展望台にて昼食をとつた後、いつもとは逆にミミズバイの高い位置にあるものから 順に測定作業に入りました。

①は以前には倒れこんでいたこともありましたが無事、②は人為的なのか（通常シカは食べないとのこと）40cmほどのところで無残にも引きちぎられており完全に枯れ死状態です。根元から新芽が出ることは難しい状況です。③④⑤はいずれも樹勢盛んで多くの枝が伸びています。

測定作業中通りかかる登山者から 何の調査をされているのですかと声をかけられ、励みになります。

2015年から調査はじめて7回目、継続していきたいものです。

途中 四丁町石が下の写真のように下部が切断されていて 倒れないよう応急処置をしました。

《町石の詳細は 「宮島弥山町石めぐり」

検索 | 宮島弥山町石

https://blog.goo.ne.jp/miyapv04 を
参照ください。》

(写真 河野)

名称	番号	樹高 (cm)	幹周り (cm)	場所	標高 (m)	前年 樹高	前年 幹周
大黒天	①	120	5.2	大黒天上 左側	385	121	4.8
15号	②	40	枯れ死	15号堰堤 上 右側	370	93	4.6
大岩下	③	183	8.8	14号堰堤 上 右側	350	180	8.8
13号上	④	228	10.5	13号堰堤 上 右側	330	208	9.6
13号	⑤	237	6.2	13号堰堤 右側	320	225	6.8
天然橋		350	18.1				



枯れ死状態のミミズバイ観察木②



ミミズバイ観察木④



断裂していた 四丁町石

③入浜池の情報

末原会員

(撮影日 8月 24日)

8月11日からの記録的な大雨による、宮島の雨量は累計で540mm降りました。

このため、山からの流水も多く池は満水状態で、河口入口の砂浜も流れ大潮の満潮時には海水が入っています。

②俳句投稿

「安芸の一の宮」 大林 實

梅雨雲のたなびく安芸の一の宮

夏潮の寄せる廻廊能舞台

能舞台下を流れる青葉潮

秀峰へ櫻木植えて卒業す

神の島汽水に沈む落し角



奥側 (C点)



全景 (A点付近)



池出口付近 (F点)



河口入口

表紙の虹は私も朝、窓の外に偶然に見つけてスマホ写真を撮りましたが、宮島を入れていた岩崎さんは流石です。2枚の写真を合わせると宮島を跨ぐデッカイ虹。

この度の編集作業で一度も活動に参加できない中で、会の皆さんに原稿と写真を頂きながらなんとか配信できました。感謝です。

今年は2年ぶりにオオヤマレンゲに会いに寂地山へ行きました。

(麻生)



牛田山方面から廿日市市方向



オオヤマレンゲ

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455